

製品名: SRF (リン酸化 Ser103) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05469**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	SRF
別名	SRF; Serum response factor; SRF
遺伝子 ID	6722.0
SwissProt ID	P11831
免疫原	抗血清は、Ser99 のリン酸化部位周辺のヒト SRF 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

背景

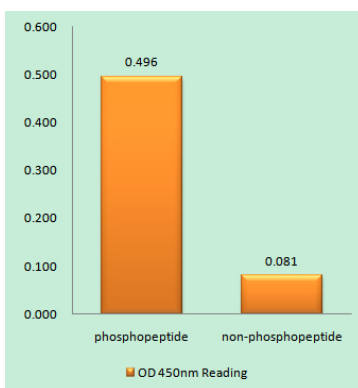
この遺伝子は、細胞増殖と分化の両方を刺激する普遍的な核タンパク質をコードしている

す。MADS (MCM1、Agamous、Deficiens、SRF) ボックススーパーファミリーに属する転写因子です。このタンパク質は、標的遺伝子のプロモーター領域にある血清応答配列 (SRE) に結合します。このタンパク質は、c-fos などの多くの前初期遺伝子の活性を制御し、細胞周期制御、アポトーシス、細胞増殖、および細胞分化に関与しています。この遺伝子は、三元複合体因子 (TCF) を介して作用するマイトジェン活性化プロテインキナーゼ経路 (MAPK) など、多くの経路の下流標的のです。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2014年5月],機能: SRF は、血清応答配列 (SRE) に結合する転写因子です。SRE は、一部の遺伝子 (FOS など) の転写開始部位の 5'末端から 300bp に位置する、二量体対称の短い配列です。心臓の分化と成熟に必要です。PTM: PRKDC によってリン酸化されます。類似性: 1つの MADS ボックスドメインを含みます。サブユニット: DNA に多量体 (おそらく二量体) として結合します。MLLT7/FOXO4、NKX3A、SSRP1 と相互作用します。ARID2 および SRFBP1 と相互作用します (類似性による)。ARID2、MYOCD、NKX2-5、SRFBP1 と複合体を形成します。

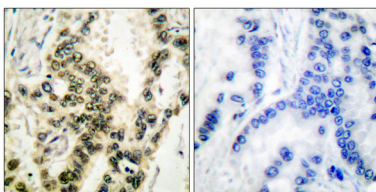
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;

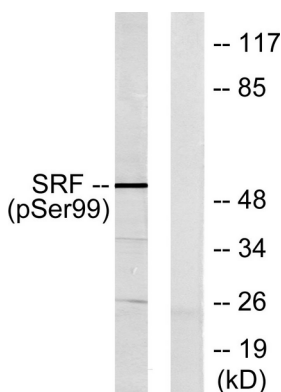
画像データ



SRF (リン酸化 Ser99) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



SRF (リン酸化 Ser99) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 10% 15' で処理した LOVO 細胞のライセートを SRF (リン酸化 Ser99) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。